

平成29年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立熊谷女子高等学校)

目指す学校像	1 自主自律の精神と豊かな人格を有し、次世代の社会をリードする心身ともに健康な生徒を育成する。 2 地域に信頼される伝統ある進学校として、生徒の第一志望の進路を実現させる。
--------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割以下)

重点目標	1 豊かな人間性と社会性を育む教育を展開し、高い志を持った次世代の社会を担う女性を育成する。 2 SSHや骨太リーダー育成事業などの取組を活かし、質の高い授業を行い、学力を向上させる。 3 きめ細かな進路指導や学習指導に取り組み、生徒一人一人の第一志望の進路を実現させる。 4 伝統ある本校の生徒としてふさわしい生活習慣を身に付けた、自らを律し行動できる生徒を育成することにより、地域に信頼される学校づくりを行う。
------	--

出席者		
	学校関係者	名
	生徒	名

学校自己評価					平成29年度目標			平成29年度評価(月日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的な方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度の課題と改善策			
1	◇勉強だけではなく、部活動・委員会・生徒会活動、学校行事に積極的に取り組む生徒が多い。知の基盤形成を図りながら、部活動では運動部・文化部ともに大きな成果をあげている。また、地域の施設や学校での奉仕活動、海外生徒派遣を実施し、地域から海外まで幅広く教育活動を展開している。さらに高い志や使命感を育み、次世代をリードする生徒を育成する必要がある。	次世代をリードする生徒の育成	①地域の高齢者施設や小学校・中学校等で、福祉活動や児童・生徒支援等を行い、社会的資源として、地域から信頼される学校づくりを推進する。 ②ニュージーランド姉妹校派遣事業、県立高校グローバルリーダー育成プロジェクト派遣事業(ハーバードMIT研修)等に生徒を参加させ、国際性を育む。 ③さらなる活発な部活動を推進する。	①生徒に地域の施設や学校等でリーダー体験をさせることができたか。地域社会に貢献する大切さを意識付けできたか。 ②海外派遣に参加した生徒がリーダーシップを発揮し活躍したか。 ③全校生徒の国際性を育むため、海外派遣の報告会を実施し、他の生徒への動機付けが図れたか。生徒の意識の変容が見られたか。 ④関東大会以上のレベルに、出場・出品できたか。(目標:10部活動)						
2	◇昨年度、SSHの第1期は任期満了となり、2期目の申請を行った。全国発表会でポスター発表賞を受賞するなどの成果を得てきたが、残念ながら認可を得ることはできなかった。経過措置の今年度、第2期の認可を獲得することが最大の課題である。◇骨太リーダー育成リベラルアーツ事業、学校間ネットワーク等を活用して、生徒の思考力・判断力・表現力等を向上させる取組の研究を進める必要がある。	SSHを活用し学校組織力の向上 思考力・判断力・表現力等を高める授業力の向上	①SSH第2期認可に向けて、理念・目標・具体的な取組内容を明確にして申請し、再指定を獲得する。 ②探究の深化への継続的研究・研修を実施し、新学習指導要領への対応を進める。 ③骨太リーダー育成リベラルアーツ事業における校内の取組を充実させる。 ④生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。	①分掌・委員会等が、SSH認可に向けて活性化したか。学校全体が組織的に取り組んだか。 ②教職員の理解を促進する先進校視察、校内研修などを実施することができたか。 ③指定を受けた事業を有効活用することができたか。生徒の感想等から、生徒の意識の変容が見られたか。 ④授業公開や研究協議により教員の授業研究を進めることができたか。授業アンケートにより、生徒の変容が見られたか。						
3	◇様々な進路行事や生徒面談などとおして、女子校のニーズに合わせたきめ細かい進路指導を行っている。昨年度は一昨年度と比べて、国公立大学やG-MARCHの合格者数の増加などの成果を得た。一方で、評議員・懇話会委員等からはさらなる進学実績の向上が望まれている。生徒一人一人の第一志望の進路を実現するため、組織的・効果的に取り組む必要がある。	進学実績の向上	①進路データ、適性等を踏まえたきめ細かい指導や補習を実施し、生徒の第一志望の進路実現を目指し、進学実績を向上させる。 ②進路実現に必要な学力を身につけさせるため、教育課程の継続的な検討と編成を行う。 ③新しい大学入試システムへの継続的調査・研究を行う。	①進路指導目標の実現に向け十分な研究や取組ができたか。 ①2017センター試験結果と比べ向上したか。 ①合格実績目標値(現役) 国公立大学60名・早慶上理ICU30名・G-MARCH100名以上 ②③教育課程の検討は進んだか。また、高大接続を見通した進路指導の体系化と方法論を精査できたか。						
4	◇伝統ある熊女の生徒としての品格を身に付け、自らを律した行動ができるように生徒指導を行っている。全教職員の共通理解のもと、生活指導や心のケア等の対応を充実させる必要がある。◇中学校や塾で行う出前学校説明会・相談会が例年40回程度ある。地域と連携しながら熊女の魅力を発信するとともに、入学者選抜の倍率に反映されるように効果的な広報活動を行う。	全教職員協力による生徒指導、心のケア等の充実 効果的な広報活動の実践	①全教職員による組織的な生活指導で、伝統ある熊女生として品格を身につけさせる。 ②SC・SSWを活用し、専門機関と連携を行うとともに、校内支援委員会を定期的に開催し、生徒情報の共有と適切な支援を行う。 ①中学校・塾に積極的な広報活動を行う。 ②学校説明会・見学会等の内容を充実させ、効果的な広報活動を行う。 ③学校ホームページのリニューアルを図り、更新回数を増やし最新の情報を発信する。	①全教職員・PTAの協力による挨拶・身だしなみ・登校・完全下校指導を行う。 ②個々の生徒に対し教職員の共通理解が図られ、様々な生徒への対応に取り組めたか。専門機関との連携を深めることができたか。 ①中学校・塾に効果的な訪問ができたか。 ②学校説明会等で工夫が図られたか。入学者選抜の倍率が向上したか。(目標1.30倍) ②学校ホームページへのアクセス数が昨年度と同程度維持できたか。						

学校関係者評価		
実施日	平成	年月日
学校関係者からの意見・要望・評価等		